

【検証課題・二】

(1) 学習の見通しを持たせる。

自分の課題にこだわりを持ち、児童自ら主体的・意欲的に学習を進めさせるために、一連の学習の流れを示す。

① 研究の実際

以前、本校の社会科部会で研究していた「単元一サイクルによる学習展開理論」を活用し、オリエンテーションを行って学習展開パターンを理解させた。

② 考察

学習展開パターンを示すことで、少しずつ課題追究への自信が見られるようになってきた。また、学級全体としての大課題を設定するにあたって、互いの疑問をうまく集約しながら設定できるようになってきた。

(2) 問題解決型学習を展開する。

一人一人の課題意識を大切にしたい課題追究の複線化を図ると共に、できるだけ一人調べの時間を確保するように努める。

① 研究の実際

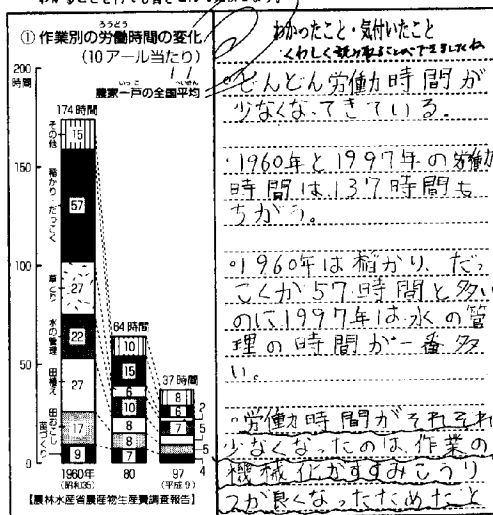
『米作りのさかんな庄内平野』

米作りがさかんな会津盆地に住んでいる児童に、まず庄内平野を学習する必然性を感じさせ

社会科ワーク 「何がわかるかな？」

5年3組 番

Q. 次の資料を見て、どんなことがわかりますか？
わかることを何でも書きこんで見まわろう。



ることが重要であった。そこで、十アールあたりの生産量を示した資料に着目させ、庄内平野の米作りへの関心を高めさせた。年度初めの単元ということでも、手引を参考にしながらの課題作りではあったが、いくつかの疑問や予想が飛び交う中から、自然条件と人為的条件とに分類し、スムーズに大課題、小課題を設定することができた。

② 考察

また、教科書や資料集を基本としながらも、図書室の活用等追究方法を自由にさせたこともあり、児童は互いに情報を交換し、それぞれ工夫しながら自分

『水産業のさかんな地域』

の課題追究に取り組んでいた。前単元の学習活動を生かし、追究活動に少しずつ自信が見られるようになってきた。

「魚を食する」以外、学習内容と生活との関わりが薄いため、活動の停滞が心配されたが、学習の流れが理解できたので、スムーズかつ意欲的に一人調べに取り組んでいた。

② 考察

児童の活動の様子から、課題の複線化や一人調べの時間の確保は、児童たちの課題追究意欲を高め、活動の様々な工夫を生

み出すのに大変有効であったといえる。さらに、深い課題追究が、終末の話し合い活動の活性化にもつながった。

(3) 資料活用の技能を高める。

自らの意欲的な課題追究を支える、資料活用の基礎的な技能を高める。

① 研究の実際 (資料2)

『資料の読み取りの手引』を配付し、グラフや文章資料、図や写真の基本的な読みとり方を指導した。そして、授業や朝の時間などを利用してゲーム形式による地図帳での地名探しをしたり、資料集などから抜粋したグラフ等を児童に与え、気付くことなどを自由に書き取ったりする活動を行った。特に読み取れない児童には、ヒントやポイントを示し、最低限必要な情報を読みとることができるようにさせた。

② 考察

活動を重ねるに従って、児童は苦手意識が薄れ、自信を持ち始めてきた。また、普段使っている資料集からの抜粋というところもあり、教科書や資料集の資料に関心を示し、本文や解説な